
メ〜テレ 狩野隆也社長 定例会見

“名古屋唯一のローカル生情報ワイド”として好調の

『ドデスカ！』を土曜に拡大

～4月3日(土)『ドデスカ！ドようびデス。』スタート～

メ〜テレ（名古屋テレビ放送）は、3月26日(金)に狩野隆也（かの・たかや）社長の定例会見を開きました。

メ〜テレは、“名古屋唯一のローカル生情報ワイド番組”として定着した『ドデスカ！』を土曜に拡大。4月3日の土曜あさ6時30分から、『ドデスカ！ドようびデス。』をスタートします。会見では、番組の概要や、岐阜県海津市出身のシンガーソングライター足立佳奈さんが手掛けたテーマソング「すばらしい日」が紹介されました。

狩野社長は、「新型コロナの影響で、人々が触れるメディアの多様化がさらに進む中、あらゆる面で地域との接点を増やすことが重要」と語り、「平日の『ドデスカ！』とともに、“月曜から土曜まで、この地方の朝はメ〜テレ”というイメージを強化していく」と語りました。



代表取締役社長 狩野隆也



（左から）『ドデスカ！』MC・望木聡子、竹田基起
『ドデスカ！ドようびデス。』MC・島津咲苗、濱田隼
（メ〜テレアナウンサー）

会見の要旨は、以下の通りです。

日頃から皆さま方には格別のご支援をいただき、誠にありがとうございます。

私、2019年6月に社長に就任しておりますが、去年は新型コロナウイルスの影響で会見を中止せざるを得なかったため、今回が初の定例会見になります。

どうぞよろしくお願いいたします。

当社は4月1日が開局した日で、来週の木曜日がその日に当たります。4月1日は新人が入る日でもあり、毎年開局記念式と入社式を同時に行っています。去年は初めてオンラインで行い、私はカメラに向かって話しをしました。今年も同様の形をとることになっています。

新型コロナウイルスに翻弄された1年とっていいのかもしれませんが。

メ〜テレは、私たちの役割である「地域の安心と安全を確保し、地域社会の文化や経済の発展に貢献する」を果たすため、信頼できる報道情報を出し続けることを最優先してきました。

社内外におけるコミュニケーションの取り方の変化など、これまでとは違ったやり方に苦労することもありました。一方で、働き方や番組制作手法の見直し、それに伴う効率化など、進められたこともありました。また、この厳しい状況で、社員が一丸となって取り組んだことは、今後につながっていくと感じています。

依然として、コロナ禍収束の見通しはなく、私たちは長期的な取り組みが求められています。引き続き、朝の『ドデスカ！』と夕方の『アップ！』を中心に、地域の皆様に信頼される報道情報を出していきたいと考えています。

それでは、始めに視聴率からご報告させていただきます。

2020年度の視聴率は、3月28日をもって確定しますが、現時点で、世帯視聴率が「全日帯」で3位、「ゴールデン帯」が4位、「プライム」「プライム2」が2位で推移しています。

朝の『ドデスカ！』は引き続き好調です。世帯視聴率では前年比、1部で0.6ポイント、2部で0.7ポイントのプラスと、大きく伸ばしています。

続いて、今期の決算の見込みについて、ご説明します。当社は3月決算です。

当期は、春以降に深刻さを増した新型コロナウイルスの影響で、上期の広告収入はスポットを中心に激減しました。

上期のイベントはほぼ中止となり、番組も屋外での撮影見合わせや、リモートによる出演を余儀なくされるなど、大きな影響を受けました。

しかし、下期以降、スポット市況が持ち直したことに加え、コストコントロールに取り組んだことで、通期では、減収減益にはなりますが、営業利益を確保できる見込みです。

詳細につきましては、5月下旬頃決算が確定した後に、経済記者クラブで説明させていただく予定です。

技術革新がもたらした地上波テレビの構造変化による広告収入の減少に加え、今申し上げたように、コロナの影響が追い打ちとなり、テレビの経営環境は以前にも増して厳しいものになっています。

私たちは、こうした時代の変化に対応しながら、これまでの“テレビ局”の枠を超えて成長していくことを目指します。

そのための経営計画が、2021年4月から3年の期間でスタートさせる、第5次中期経営計画です。

キーワードは「コンテンツ」と「新発想」です。

5次中計では、メ〜テレグループがこれまで取り組んできた、「放送事業」「コンテンツビジネス」「新規事業」の3本柱を、デジタルの力を活かして発展させながら、それぞれが重なり合って新たなコンテンツを生み出すことを目指します。

また、外部パートナーとの連携によって生まれるアイデアをもとに、新しい事業を創り出したりするなど、従来の枠を超えた新しい発想によって様々な効果を生み、事業領域を拡大していきたいと考えています。

もちろん、「地域の安全と安心を確保し、地域社会の文化や経済の発展に貢献すること」が、メ〜テレの土台となる重要な役割であることに変わりはありません。

ウイズコロナが続く中、この役割をさらに深め、地域が抱える課題の解決などにも、積極的に貢献していきたいと考えています。

メ〜テレは、昨年末、国連のSDGメディアコンパクトに加盟しました。

4月からは、私を長とする「SDGs推進委員会」を発足させ、番組やイベントなど、横断的な取り組みを強化していきます。

来週月曜日には、地元の高校生たちがSDGsの目標達成に向けたアイデアを競う『SDGs Quest 未来甲子園』の東海大会を、オンラインで開催します。

将来を担う若者たちの発想や行動が、地域を変えていくきっかけになるのではないかと期待しています。

メ〜テレの新しい取り組みについて、何点か申し上げます。

コロナの影響で、人々が触れるメディアの多様化がさらに進み、「テレビ以外で情報を入手する」という人たちもさらに増えています。ネットでの展開などを含めた、あらゆる面で地域との接点を増やすことが重要だと考えています。

こうした編成方針のもと、メ〜テレの強みである朝の時間帯での情報番組を更に充実させるべく、『ドデスカ!』を土曜日に拡大。4月3日の土曜あさ6時30分から『ドデスカ! ドようびデス。』をスタートします。東海3県125市町村を巡り、魅力を伝える企画なども始めます。

平日の『ドデスカ!』とともに、この時間帯では、在名テレビ局の中で、唯一のローカル生情報ワイド番組として、「月曜から土曜まで、この地方の朝はメ〜テレ」というイメージを強化していきます。

朝の『ドデスカ!』と夕方の『アップ!』の中で、さきほども触れましたが、地域の魅力を伝えるコーナーや、人々の疑問に答えるコーナー企画などを新設します。この地域でのメ〜テレの価値向上と、ファンのコミュニティを拡大するため、地域に暮らす方との繋がりをさらに増やしていきます。

地域密着の情報番組とともに、メ〜テレが力を入れているのがコンテンツビジネスの分野です。まず、人気グループ「A.B.C-Z」主演の連続ドラマ『ワンモア』を、4月クールのメ〜テレドラマ作品として編成します。

TVer・Gyao!での見逃し配信も行い、放送との両面で視聴者の拡大を目指します。

また、映画の分野では、11月に「FIA 世界ラリー選手権（WRC）」が開催される、豊田市と恵那市を舞台にした映画、『僕と彼女とラリーと』を製作し、今年の秋に公開します。

新規事業の分野では、昨年9月から「Hisaya-odori Park」の大型ビジョン、10月から栄の地下街セントラルパークで「デジタルサイネージ」事業をスタートしました。今年は、さらに事業を拡大していく予定です。

私からは以上です。ご清聴ありがとうございました。